

令和4年度 第4回 引佐北部小中学校 学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月17日（金） 15時30分から17時10分まで
- 2 開催場所 引佐北部小中学校 図工室
- 3 出席委員 夏目 稔三、五十川亜純、鈴木 知成、池田 信子、
山本 培代、廣瀬 稔也、池本 知充、鈴木 計芳
- 4 欠席委員 加藤 隆康、小林 成彦、岡部 裕子、西岡 祥一、西本 有一
- 5 学 校 遠藤 健司（校長）、山下 剛功（教頭）、田力 里枝（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 協議事項

- （1）会長あいさつ
- （2）校長あいさつ
- （3）議長選出
- （4）前回議事録確認

- （5）熟議

議長：夏目 稔三 委員

- | | |
|----------------------|------|
| 【1】学校運営協議会の自己評価について | 教頭 |
| 【2】学校評価から（学校関係者評価） | 教頭 |
| 【3】令和5年度学校運営経営構想について | 校長 |
| 【4】その他 | 廣瀬委員 |

- （6）連絡事項 教頭

- 8 会議録作成者 CSディレクター 田力 里枝

9 会議記録

司会の教頭から、委員総数13人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

- （1）夏目会長あいさつ

今年度のキーワード、「たくましさ、かしこさ、やさしさ」が卒業を前に定着してきている。

- （2）校長あいさつ

年度末で子供の成長が感じられる。今日の高等部スピーチ集会では、9年生が広く社会に目を向けたスピーチと自然で深い語り合いができていてすばらしかった。

- （3）議長の選出について

今回の議長を夏目稔三委員に依頼し、全員異議なくこれを承認した。

- （4）前回議事録確認

前回の会議録の資料を各自で見ていただくようお願いした。

- （5）熟議

【1】学校運営協議会の自己評価について

〈評価項目 1〉

- ・ 昨年度から年度末に翌年度の基本方針を提示していただいて議論できたのは良かった。一方、校長や委員が替わる可能性があるので、継続の面で考えていく必要がある。(廣瀬委員)
- ・ 課題はすぐに結論は出ないため、考え続けていくことになる。(校長)

〈評価項目 2〉

- ・ 国際コミュニケーション科について熟議を進められたのは良かった。議論されたことがすぐに反映されることは難しいと思うが、何らかの反応が欲しかった。外部の専門家の力を借りるタイミングが少なかった。(廣瀬委員)
- ・ スピーチ集会を委員としても見たかった。(夏目委員)
- ・ 人財バンクを充実させて、学校の活動にプラスしていくといい。(五十川委員)
- ・ 地域に能力ある人はいる。(鈴木計委員)
- ・ 引佐南部中で講師をしてもらった人がいる。地域外の人でも動いてもらえるのではないかな。(山本委員)

【2】学校評価から

- ・ P11 以降の保護者意見が重要。ありがたい内容から厳しいものまで、耳を傾けて、場合によっては個別対応もしている。学校評価アンケートでは保護者の数値がアップしているものが多い。うれし。一部下がっているものについては来年度に向けて協議中。英語科の岩田が、中学生に対して国際化を意識させる授業をしており、教員も情報共有している。(教頭)
- ・ 運動不足については？(夏目委員)
- ・ 体育科から跳び箱での手の力が弱いようだという報告を受けて、遊具として運動場に古タイヤを埋めることを計画中。遊びの中で体力が付くようにすることを期待。(教頭)
- ・ 昼休みの外遊びが増えた。若い教師ががんばっている。子供も大人も意識が高くなってきた。(校長)
- ・ 項目 11 で、保護者と教員のポイントの差が大きい(鈴木知委員)
- ・ 授業の内容を工夫して、大きく変化している。(校長)
- ・ 保護者や子供に、教師の授業に込められた思いがこれから段々に伝わって行くのではないかな。(池田委員)
- ・ 保護者の数値アップはとてもいい。項目 7 で教員の評価が低いのはなぜか。(廣瀬委員)
- ・ これは教員の指導力の問題でもある。教員が子供に「もっと勉強したい」と思わせることが大切と思う。(教頭)
- ・ 低学年の児童には家庭で寄り添って家庭学習を見てあげないと子供が一人ではできないことが多い。ゲームなど誘惑が多いので、家庭の協力によって変わってくる部分も大きい。家庭との協力関係を深めていきたい。(校長)
- ・ 一貫校を作った時に心配していたことだが、6 年生が小学校の最上級生としての自覚を持って中学生になっていかないといけないのではないかな。(夏目委員)
- ・ 6 年生は中等部の中間の立場なので、リーダーの意識は低い。が、7 年生で中等部リーダーとして様々な体験をしていく。小学校の最高学年として 6 年生に任されることもあるので、トータ

ルとしては他校の子どもたちより手厚いリーダー指導がされる。(校長)

- ・ テスト前には計画表を作るが、おおざっぱすぎないか。もっと実践に即したものをやらせたい。(廣瀬委員)
- ・ 計画をもう少し細かく作らせることはできるのではないか。(夏目委員)
- ・ 小2の月末テストは教科書の範囲だけが示されて、そこをやらせていても不安はある。親がずっと付いているわけにはいかない。自分でやらせたいが・・・。(五十川委員)

【3】令和5年度学校運営経営構想について

- ・ P16、主体的に学ぶことが大切。テストでの評価がしにくいポイント。スピーチ集会で見える、発見できる。「生徒指導提要」の改定を受けて教育目標につなげた。学校経営の基本スタンスは継続。中学教員が小学校の授業を受け持つことでゆとりが生まれる。初、中、高等部に分けることで中学教員が中等部の主任を担当できる。P21①はさらに充実させたい。②は全体として、上級生への憧れを持つことと下級生の面倒を見ることで自身の成長につなげる。③は教員自身が足りないところを出し合って学び合う研修を計画中。④人材活用を年間計画に入れている。授業の中で活用するのは教員の労力が要る。コーディネーターと話を密にして効果的に活用したい。⑤今後も継続していく。⑥何より子どもたちの意識を高めていきたい。今年度6年生の研修旅行で東京グローバルゲートウェイに行ったが、楽しく学べる点で非常に良かった。今年度は校内で英語デーを計画している。ふるさと科の学びの中で子供の主体性を伸ばしたい。しかし、主体性を重んじる中で、教師の負担も大きくなる傾向がある。(校長)
- ・ 地域の人財を活用するのはいいこと。先生方の働き方改革もぜひ進めて欲しい。(鈴木計委員)
- ・ 朝の読み聞かせで、金子みすゞの英訳本を読んだところ、単語から作者を理解できた。浜松市の英語スピーチコンテストへの出席はとても効果がある。(五十川委員)
- ・ 一貫校として先生の負担が大きいとはどの部分か。多忙で困っているのであれば、協議会としてフォローしたい。(夏目委員)
- ・ 小中両方を理解して、すりあわせていくための話し合いの時間が多くいる。学校行事が多い。(校長)
- ・ 自治の力を育む・・・とは今なのか将来なのか。(廣瀬委員)
- ・ 将来そうなるように育てたい。(校長)
- ・ 小中一貫でカバーできる？(廣瀬委員)
- ・ 日々の生活の中でお互いを感じることができる。(校長)
- ・ 年間計画で外部の人を入れるのが大変というのはどの辺が？(廣瀬委員)
- ・ どういう風に入ってもらったら効果的なのかを前もって考える、計画、調整していくことが非常に難しい。(校長)
- ・ P22⑥のふり返りとは？(廣瀬委員)
- ・ 子供が節目ごとにふり返ることにつながりを感じさせることが、中学生になってから生きてくる。(校長)
- ・ 先生の残業時間を開示することで、保護者地域の理解が得られるのではないか。(廣瀬委員)
- ・ 具体的な取り組みは現在進行形。3年間で平均すれば減少傾向にはある。(校長)

【4】その他

- ・ 来年度、PTA 活動の資源回収は行わない。資源回収について。回収のボックスを地域に置くように検討していたが、私有地にしか置けないという制限があって難航している。（廣瀬委員）
- ・ 「きらっといなさ」に親子で入ってもらえば回収ができる。（山本委員）

（6）連絡事項

- ・ 委員会開催は4回を計画しており。第一回は5月11日（木）です。